京 阪 神 堺
KYOTO OSAKA KOBE SAKAI

in御堂筋オータムパーティー2018

人中心の道路空間展

都心の空間が、変わり始めています。
人に開かれた、安心して暮らせる、歩いて楽しめる「都心」へ―。
魅力的な都市空間は、人を呼び込み、
にぎわいのある都市の活力を生み出します。

〔日時〕 2018
11.4 日
14:15～16:15

〔場所〕
御堂筋オータムパーティー 2018 会場
新橋北交差点付近

御堂筋や他都市の道路空間再編を紹介するパネル展示の他、御堂筋の散策に大変便利な「御堂筋ＭＡＰ」等も配布します。ぜひお立ち寄りください。

美しい御堂筋のイチョウ並木を未来へ

- 御堂筋の象徴ともいえる「イチョウ並木」は「近代大阪を象徴する歴史的景観」として大阪市の文化財にも指定されており、春の新緑、夏の木陰、秋の黄葉など四季折々の景観が、大都市大阪に潤いと季節感をもたらしてくれています。
- この美しいイチョウ並木のある御堂筋が、より多くの人に愛され親しまれる大阪のシンボルストリートにふさわしい並木道となるよう、御堂筋イチョウ並木募金の創設にむけた準備を進めています。募金開設の折には、皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。

〔主催〕大阪市
〔協力〕国土交通省近畿地方整備局 / 京都市 / 神戸市 / 堺市 / （公社）関西経済連合会

京 KYOTO 阪 OSAKA 神 KOBE 堺 SAKAI 4都市の展示パネル

京都 KYOTO

人と公共交通優先の歩いて楽しい四条通

四条通歩道拡幅事業

整備前

整備後

●四条通は、市内有数の繁華街を抱え、歩行者の通行量は市内で最も多く、文化的にも祇園祭の山鉾が巡行するなど、京都を代表する道路です。しかしながら、バス待ちの方と歩行者との交錯や、駐停車車両により機能しない第一走行車線などの課題がありました。

●これを、人と公共交通優先の理念のもと、歩道と車道の空間配分を見直し、四条通を中心とするまちなか全体の賑わいの創出を図るため整備を行いました。整備後は、歩行者通行量が増加、来街者の約9割の人が「歩きやすくなった」、約8割の人が「歩いて楽しめるようになった」と回答しています。

道路と公園の一体整備等による 岡崎エリアの賑わい創出

京都岡崎ハレ舞台 / 京都学生祭典

●岡崎エリアでは、2015(平成27)年に、歩いて楽しい岡崎のシンボルとなることをめざして、神宮道と岡崎公園の再整備を行い、以後多彩なイベントで賑わいを創出しています。

●再整備に当たってのイベント型社会実験として行った「京都岡崎レッドカーペット」を含む「京都岡崎ハレ舞台」も例年開催され今年度は京都国際マンガ・アニメフェア(京まふ)2018などの各種イベントが、9月15日(土)・16日(日)の２日間、昼夜にわたり開催されました。特に15日には、ディズニーの仲間たちが参加する１日限りのスペシャルパレードも実施されました。10月7日(日)には京都の学生が主体的に企画・運営し、産・学・公・地域のオール京都で支援する「第16回京都学生祭典」が開催されました。

京都岡崎ハレ舞台での子供たちのソーラン節

大阪 OSAKA

世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ

御堂筋道路空間再編

モデル整備前

モデル整備後

●御堂筋は、大阪市中心部を南北に貫くシンボルストリートとして1937(昭和12)年に整備されました。現在は、建設当時とは社会情勢が変化し、人々の行動形態や周辺のまちの状況も大きく変わっていく中、側道を活用し、「車中心から人中心」の道路へ空間再編をする取り組みを進めているところです。

●千日前通り以南(難波交差点～難波西口交差点間:約200m)の東側街区では、御堂筋全体の道路空間再編のイメージを現地で可視化し、歩行者・自転車通行の安全性や快適性等の道路空間のあり方の検証につなげていくことを目的としてモデル整備を実施しました。

車中心から、人中心のストリートに転換を図る空間再編の推進とその実現に向けた羅針盤。

御堂筋 将来ビジョン (取りまとめ：御堂筋完成 80 周年記念事業推進委員会)

●2017(平成29)年に実施した御堂筋完成80周年記念事業では、シンポジウム、ワークショップ、御堂筋を華やかに演出する取組みを通じて、市民やエリアマネジメントなどのまちづくり団体を含む地元地域、学識経験者(専門家)等から御堂筋の将来に関する意見を聴取し、その意見をふまえながら御堂筋の将来像を示す、「御堂筋将来ビジョン」を御堂筋完成80 周年記念事業推進委員会において取りまとめました。

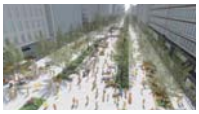
ファーストステップ

側道歩行者空間化

▸短・中期目標

将来ビジョン

▸長期目標



【側道歩行者空間化に向けた主な取組み】

- ●エリアの特性をふまえた、面的な視点での空間づくり
- ●社会実験などによる交通や荷捌きへの影響の検証
- ●交通や荷捌き、自転車の通行や駐輪のあり方、空間の利活用手法などを地元関係者と議論する場を設置
- ●将来ビジョンを推進するための持続可能な公民連携体制づくり…など

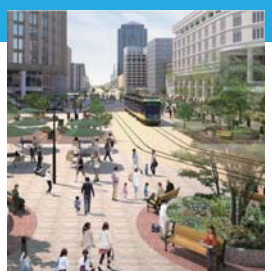
【将来ビジョン実現に向けた主な取組み】

- ●都心部全体の交通ネットワークの再編
- ●沿道建物の誘導
- ●新たな情報システムによる都市インフラ全体のネットワーク化
- ●歩行者と多様なモビリティが安全に共存できる仕組みづくり

神戸 KOBE

美しき港町・神戸の玄関口“三宮”へ

三宮クロススクエア



将来構想

●三宮にある6つの「えき」とその周辺の「まち」をつなぐ空間を、『えき≒まち空間』として、デザインにも配慮した神戸にふさわしい玄関口に変えていきます。その核として、三宮交差点を中心に、人と公共交通優先の空間整備を進めます。

●この実現に向けては、・三宮中心部を通過する自動車交通の周辺道路への誘導・都心の道を人のための空間とするための歩行環境の向上・分かりやすく使いやすい交通手段の導入・交通弱者の方や商業者の荷捌きなどへの配慮などの検討を合わせて進め、段階的な整備に取り組みます。

公共空間の活用

都心・三宮に広がる憩い・賑わい空間

●車道の一部にウッドデッキを設置した「KOBEパークレット」や半地下の広場でベンチ等が設置されている「三宮プラッツ」、２車線であった車道を１車線に絞って憩いの空間を創出している「葺合南54号線」など、公共空間を活用したさまざまな憩いの空間を三宮周辺で整備しています。

葺合南 54 号線

KOBE パークレット

堺 SAKAI

関西における道路空間再編の先駆的な事業

大小路線シンボルロード整備事業

整備前

整備後

●市道大小路線(愛称名「大小路筋」)は、南海線堺駅と堺市の玄関口である高野線堺東駅を結ぶ、距離約1.5キロメートルのシンボルロードです。都心地域の魅力ある街づくりを推進するため、1984年から歩道の拡幅をはじめ、バリアフリー化、電線地中化、大小路橋歩道橋の架け替え、そして壁画やモニュメント、噴水などの整備を行っています。整備後は、堺まつりのパレードが行われるなど、各種イベントにも利用されるようになりました。

●近年では、大小路筋に面する堺市役所前と堺地方合同庁舎前の空間を、堺の玄関口として堺東の街のイメージを高め、憩いと賑わい、出会いと交流の場を創出する広場「Minaさかい」として整備し、大小路筋とあわせて地域活性化に向けた様々な取組みが行われています。

シンボルロードのにぎわい

大小路筋における市民主体によるイベント

●大小路筋では、歴史と伝統に彩られたまち・堺の魅力がたっぷり味わえる堺まつりをはじめ、堺の大通りを「華麗」に彩る堺桜彩(おさい)イルミネーションなどのイベントが市民主体により行われています。

堺まつり
(出典)大阪観光局ウェブサイト

堺桜彩イルミネーション
(出典)大阪・光の饗宴ウェブサイト